



古着が大変身

— 手づくり、リメイク、楽しいよ —



西多摩地区生活クラブ生協企画「リメイク教室」を訪ねました。
理事の葉狩さんのお話では、全3回の企画を「やりくり上手」「ムダのない暮らし」「地域のつながり」の3点を考えて、まずは「リメイク教室」を行なうことになったそうです。



若いころに着たキュロット



ジャンパースカート

Aさんの意見

自分の着ていた物を娘の服に作っています。経済的だし、娘も喜んでうれしいです。



大人のベスト



ワンピース



小川さん (3人目の赤ちゃんが生まれます)

もったいなくて捨てられない服が新しい子供服になって再生！大満足です。



子供 (140サイズ) のズボン

トレーナーが息子のズボンになるなんてびっくり



講師の島本さん

きっかけは洋服で個展をしてほしいとのギャラリーから依頼があったことです。多くの服を作るので、その材料として「いらぬ布や古着があったら下さい」と声をかけたら、すぐに部屋一杯も集まりました。どこの家庭も多くの不要な服、布が眠っているとわかり、これは何とか利用したいものだと思います。
やってみるといろいろな点でメリットがあり(経済的・手がるである・実用的だ、など)自分の力量ひとつで、元の洋服たちがいろいろ変化する姿におもしろさを感じています。
最近では、この作る喜びやおもしろさをお伝えしています。



ミシンを買ったので、使いこなしたいと考えていた時、島本さんと出会いました。「リメイクでいこう!」とすぐ決めました。



風間さん (幼児2人がいます)



着物を反物にもどします



まきスカート

模様合わせは気を使います。



OL時代のツーピース



授乳用のチュニック

気に入っていた服をリメイクでまた着られることがとても嬉しい。欲しいものを探す手間もいらず希望通りのものができます。おまけに考える楽しみもあります。



竹原さん (3ヶ月の赤ちゃんのお母さん)

胸のすきまをつくるのが大変でした。

その他の参加者の感想

- 今まで買っていた子供の服を手作りするようになった。
- バッグ、プールタオルなども買う必要がなくなった。
- ラッピングのヒモやリボン、ワッペンなど工夫しようという気になった。
- 受身の消費者から、工夫する自分へと変化した。
- 自作のものは愛着があり大切にします。
- 集中することができて時間を有意義にすごせるようになった。
- 切り裂いた服も資源として出せるので良い。